

みんなで楽しむ企画展

リニューアル記念の美術館企画展は
美術館ユニットKOSUGE1-16がお届けする『未完星』。
代表の土谷享さんがその魅力を語りました。

市民と共にあるデザイン

この展覧会の構想のため宇城市をリサーチする中で、工業デザイナーの秋岡芳夫さんの「裏作工芸」に出会いました。秋岡さんは、雪深い岩手県で農閑期に農業の裏作として木工などの工芸に取り組み、コミュニティを回復させました。そんな住民と共にあるデザインが今回の発想の基になっています。

制作に当たって、宇城市の皆さんにもお話を伺い、多くのインスピレーションを頂きました。例えば、三角町で活動するくまもと☆農家ハンターの皆さん。イノシシ猟を見学し、隅々まで無駄なく活用して命を大切に作る姿から発想を得て、この宇城バージョンのサッカーゲームが出来上がったんです。人と獣、ミカンの木が同じチームで

一緒に戦う。目標とする共存の世界をここに表現しています。サッカーコートの両脇のビニールは、宇城市の風景から着想を得たものなんです。

身近な未完アート

秋岡さんの発想のように皆さんの身近にも生活とアートがつながる場面があります。趣味や子どもの自由研究など、さまざま



娘さんが父の郷土史研究ノートを「未完」として応募

まな場面で完成させられず捨てられない物たち。今回、それらを作品として市民の皆さんに応募いただきました。その数50件以上。物語のある面白い作品もたくさんあります。未完の物でも展示できるんだと、美術館への意識も変わるかもしれません。一度訪れていただき、皆さんの身近に眠っている未完の作品

も応募してほしいです。展示の方法も工夫し、美術館特有の壁や動線を自由に使っています。動画の応募もあつたんですが、どのように展示しているかは見てのお楽しみです。

市民と一緒につくる

人生の中で、完成して初めて評価されたことや、冷やかされ

足止めされて結局できなかったこともあると思います。この企画展では、皆さんがやってみようと思いついたときの気持ちを思い出してほしいですね。「市民と一緒につくるみんなの美術館」を形にした展覧会。新しい美術館にふさわしいものに仕上がっていると思います。ぜひ皆さんもお越しください。



天狗の顔を思い出すための『WANTED 天狗』未完作品

みんな~
コレ知ってる?

最新情報は
こちらから



instagram



LINE

図書館・美術館
耳より情報

その1 自分の活動や発表の場に



展示室やアトリエを借りて作品展示や創作活動ができます。詳しくは16ページをチェック。

その2 松橋駅から緑の徒歩ルート

最寄りの松橋駅東口から緑の塗装がされた道をたどり、踏切、トンネルを抜けると、美術館・図書館に到着。およそ10分ほどの徒歩ルートで、迷わず来館できます。途中から車は通れなくなるので悪しからず。



その3 マルシェ開催もカンタン♪

店舗として利用できるマルシェ用のテントやテーブルなどを用意していますので、気軽に開催できます。まずは一言、図書館・美術館に相談してみてください。



未完星 [mikan-sei]
— 6月4日④まで開催中 —

KOSUGE1-16
「もちつたれつ」をテーマに2001年から活動を開始。分野横断的領域のプロジェクトを得意とし、国内外でインスタレーションやアートプロジェクトなどを発表している。

イノシシ

ミカンの木

土谷 享さん